不知火小学校通信

かけはし

文責：小倉

地域と共にある学校　～地域学校協働活動～

「地域学校協働活動」は、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働する文部科学省の事業です。

宇城市では、平成２０年からこの事業を推進し、特に不知火小学校はその先駆的な取組を行っていました。熊本地震前は、年間のべ３，０００人もの地域の方に、ボランティアとして不知火小学校の子供たちの成長を支えていただいていました。近年はコロナウィルス感染症拡大防止等の理由により、なかなか実践ができていませんでしたが、今年度から少しずつ活動を再開しているところです。

「マザーグース」による読み聞かせ

先日も、読み聞かせボランティアグループ「マザーグース」の方々に読み聞かせを実施していただきました。当日は１２名ものボランティアの方に参加いただき、各教室でボランティアの方から、３年ぶりに直接お話を聞くことができました。子供たちは、食い入るようにスクリーンに映し出される挿絵を見ながらボランティアさんの話に耳を傾け、物語の世界に浸っていました。

子供たちは、地域の様々な方々と交わる中で、閉ざされた学校だけでは体験できない様々な学びと、先生や友達だけでは味わえない豊かな人と人とのつながりを得ることができています。

地域学校協働活動推進員の皆さん。学校と地域をつなぐ、コーディネーターの役割を担っていただいています。

子供たちのために頑張ります！

本田さん　西本さん　甲斐さん

たくさんの善意に支えられて

４月以降、不知火小学校には、地域の方々からの寄贈や寄付をいただいています。改めて子供は、学校や家庭だけでなく、たくさんの地域の方々の温かいお気持ちと、子供たちの未来への大きな期待に支えられているのだと実感しました。子供たちと、寄贈いただいた方々の想いを共有しながら、有効に活用させていただきたいと思います。

JA熊本宇城トマト専門部会からミニトマトをいただきました。給食でおいしくいただきました。

物産館「アグリパーク豊野」から、５万円の図書券をいただきました。

JA熊本宇城柑橘部会からデコポンジュースをいただきました。暑い日にいただきます。

☆　７月８日（金）の授業参観・学級懇談会はお世話になります。詳細は配付したプリント、またはホームページをご覧ください。なおコロナウィルス感染拡大状況によっては変更・中止もあり得ることをご了承ください。